

第3回白石市総合教育会議 会議録

- 1 招集日時 平成29年1月11日(水)午後4時
- 2 招集場所 白石市役所 5階 第3委員会室
- 3 出席委員 市長 山田裕一  
教育委員長 高橋久 教育委員 佐藤敏義 教育委員 佐藤よし美  
教育委員 片平美智子 教育長 武田政春
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局出席者  
教育委員会事務局  
理事兼教育専門監 樋口英明  
学校管理課 課長 小室英明 課長補佐 後藤滝雄 主幹 菊地智佳  
生涯学習課 課長 佐藤浩
- 6 開会時刻 午後4時02分
- 7 報告事項 (1) 白石市総合教育会議運営要綱の一部改正(案)について  
(2) 平成29年度予算編成について  
(3) 学校統廃合について
- 8 協議事項 (1) 白石市の教育の将来構想について
- 9 開会  
(午後4時02分開会)  
小室課長 皆さまお揃いでございますので、ただいまから第3回白石市総合教育会議を開催いたします。まず初めに山田市長よりごあいさつをお願いいたします。  
山田市長 皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いをいたします。本日は第3回白石市総合教育会議を開催させていただきまして、教育委員の皆様と白石市の教育の将来の構想について、さまざまな角度から議論をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。  
小室課長 それでは報告事項、レジメの3番に入らせていただきます。この会議につきましては要綱第3条の規定により市長が議長となり、会議を進行していただきたいと思いますので、山田市長、よろしくお願いいたします。

山田市長 はい、ありがとうございます。それではまず、報告事項に入ります。報告事項1番、白石市総合教育会議運営要綱の一部改正（案）について、事務局より説明をお願いいたします。

小室課長 資料の1ページをご覧いただきたいと思います。改正の内容といたしましては、第6条中、「総務部企画情報課及び教育委員会事務局が合同で」という部分を「教育委員会事務局が」に改めるものでございます。当要綱につきましては、平成27年の7月に制定をいたしまして、平成27年度中に2回ほど会議を開催しております。その中で、資料の作成や運営等、教育委員会が事務局を担当した方がより現状に即しているとの判断から、今回改正を提案させていただきました。以上でございます。

山田市長 はい、ありがとうございます。こちらは報告事項となっておりますが、皆様からご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

（「はい」という声あり）

山田市長 はい、ありがとうございます。では続きまして報告事項の2番、平成29年度予算編成について、事務局お願いいたします。

高橋委員長 11月より山田市長が就任されて、今までの教育委員会の計画をおわかりいただいた方が、予算の編成についてもわかりやすいと思いますので、少し時間がかかるかもしれませんが、私の方から説明した後、具体的な予算編成について説明したいと思いますが、いかがでしょうか。

山田市長 ありがとうございます。それでは、高橋委員長からよろしくお願いいたします。

高橋委員長 市長が11月14日に就任されたということで、今まで、白石市教育委員会としての考え方について、少し説明させていただきたいと思っております。白石市としましては、平成28年度に白石市教育振興基本計画をつくりました。これは5年間をもって、何とかこういう子どもにしたい、そういう子どもにするために具体的にどういう取り組みをしていったらよいのかということで、4ページをお開きいただくとわかりやすいのですが、目指す子どもたちの姿として「高い志をもち、社会を生き抜く子ども」とし、「高い志をもち、時代の変化に柔軟に生き抜く人（市民）を育てたい」ということで、そのために基本目標としてここに4つの柱を設けています。この4つの柱を実現するために基本方向ということで更に6つの柱をさらに立てています。その6つの柱の具体的な取り組みについては5～8ページに記載されています。その具体的なものにあっても更に重点的な主な実践ということを出しています。これを基に何とか5年間で子ども達を育てていきたいと考えています。これにつきましては、白石市として教育大綱を作成しなければならないことから、平成27年11月、第2回総合教

育会議を開催し、その中でこれを白石市の教育大綱にするということで決定しております。ただし、教育大綱では大きすぎるので、年度ごとに教育基本方針を作成しています。この基本方針については、毎年少しずつ加除訂正を加え、2月までに決定し、それを基に学校では、この基本方針を踏まえて、学校それぞれに独自性を活かした学校の教育計画を作り、具体的に実践という形になっております。

今の白石市の教育の特徴は、まず、2学期制を導入しております。2学期制の導入は、通信表を作成しないということで、7月、12月に時間に余裕ができます。その時間を子ども達の不足する学力を補うとか、体験活動の時間に充てる等、それぞれの学校ごと研究し出した成果を検討した結果をもとに、2学期制を導入しています。昨年度からご理解をいただきまして、35人学級を導入しております。心も大事ですが、学力も基本的に大事だということで、市独自として4月と12月に年2回、実力テストを実施しています。年2回実施の理由は、4月は先生方に子ども達の実態を把握してもらうため、そして12月にやるのは、その実態を把握してもらった結果、先生方が実践してきた成果を確認してもらうために行っています。これはあくまでも、子ども達の学力の差をみるものではなくて、先生方の指導が着実に達成しているかどうかを判断するものとして行っています。また、ALTについては、英語教育が本格化するにあたって今まで中学校にのみ配置していたものに加え、小学校にも配置していただくようになっております。更にまた、幼稚園から小学校、小学校から中学校へ進級するときにギャップが出てきていますので、そのギャップを少しでもなくすために、小学校と中学校の連携、幼稚園・保育園・小学校との連携の強化に努めています。また、ICT関係として、電子黒板、実物投影機、タブレット、これらについてもかなり教育効果を上げております。また、支援学級に入らなくてもそれに近いいろいろな特徴を持った子ども達が普通学級に入ってきていますので、特別支援学級や普通学級に支援員を配置し、きめ細やかに対応することで、子ども達がよりいきいきとして学校生活を送れるようになってきています。市当局のご理解をいただいてこれらの事業を実施できていることに感謝しております。市の財政が大変なことは承知しておりますが、次年度の予算編成が、将来、我々が託すべき子ども達の立派な成長につながり、市民の方々が地面にしっかりと足をつけて生活する源になるものと考えております。なお、詳しくはそれぞれの課長から具体的に説明させていただきます。

山田市長      ありがとうございます。

小室課長      それでは、予算要求の概要につきまして高橋委員長からお話しいただきましたので、私の方から具体的な内容についてお話しさせていただきます。資料3ページをご覧くださいと思います。時間の関係もありますので、特筆すべき事項についてのみお話しさせていただきます。まず、3行目でございますが、学校管理課分の予算総額4億9574万5千円という額になっておりまして、昨年度比較で約1600万円増額となっております。これはあくまで査定前の要求ベースの数字となっております。具体的な中身についてですが、第1点目といたしまして、わかる授業、教職員の事務負

担を軽減して子どもと向き合う時間を増やすという意味合いで、今後ともICT環境の一層の整備を図っていきたいと考えております。それで、今年度の具体的な内容といたしましては、ここにも記載しておりますが、短焦点型のプロジェクター、インタラクティブキットというもので、タッチペン方式で〇とか表示したり消したりできるものをセットで20台用意したいと考えております。続きまして2点目としまして、不登校の解消を進めるためにということで、白石市子どもの心のケアハウスにスーパーバイザーを1名配置しておりますが、それを2名とする要求を上げさせていただいております。3点目として、児童生徒の安全確保、施設の老朽化、教育環境の整備向上に対応するために、施設修繕料に1365万4千円を計上いたしております。それから、学校トイレの洋式化に伴う工事請負費1749万5千円を上げさせていただいております。4点目といたしまして、学校統合関係といたしまして、スクールバス購入費等で1196万円を要求しております。次に5点目といたしまして、統廃合、障害のある児童生徒に適切に対応してきめ細やかな教育活動を推進するために任期付職員を5名から1名増員し6名ということで計上させていただいております。また、特別支援学級等支援員、これは小学校・中学校・幼稚園等にはありますが、このほかに、英語指導補助者、図書室整備の方、平成28年度は24名採用しておりますが、29年度は3名増員しまして27名ということで要求しております。次にALTについてですが、昨年度から3名増員して6名としておりますが、外国語教育のさらなる充実を図りたいと考えております。以上が学校管理課の特筆すべき部分となっております。続きまして、資料の5ページをご覧くださいと思います。学校給食センター部分について、お話しさせていただきます。学校給食センターにつきましては、平成27年8月から今の大平地区に移転稼働しております。平成29年度の予算額としましては、合計2億7411万円ほど要求させていただきました。昨年比較ですと490万円ほど増額となっております。内訳をしてみますと、業者へ委託している運営委託料1億1823万円、賄材料購入費が1億5460万円、その他の消耗品等については120万円ちょっとというような予算内容となっております。給食センターにつきましては、今後とも児童生徒の栄養摂取状況のさらなる改善、アレルギーの悩みを持つ児童生徒を含めまして安全でおいしい給食の提供を目指してまいりたいと考えております。以上簡単ではございますが、説明とさせていただきます。

佐藤課長

続きまして生涯学習課関連の予算について説明をいたします。まず、社会教育総務費の一般管理的経費については、238万2千円を計上しております。これについては、生涯学習フェスティバル事業への補助金、各種文化団体、協議会への負担金補助を見込んでおまして、生涯学習の推進に寄与するために計上しております。次に社会教育総務費の社会教育事業費ですけれども、651万8千円計上しております。これは主に県委託事業になります。放課後子ども教室、協働教育プラットフォーム事業を行うものとなっております。これについては、子育て支援を中心に考えて、家庭・地域・学校と連携して、家庭・地域の教育力の向上を図ってまいりたいと考えております。公民館事業費ですけれども、これについては中央公民館あるいは地区公民館の経常的

な管理的経費を見込んでおりまして、4085万6千円を計上しております。今年は特に、白川と大平公民館の防水工事を計上しておりまして、昨年より70万円程多く計上しているところでございます。同じく公民館事業費におきましては、181万5千円を計上しておりまして、これについては、生涯学習の推進ということで中央公民館の主催事業、講座の開催経費を見込んでおるところです。文化財事業費につきましては、歴史文化の継承と創造ということで、103万6千円を計上しております。これについては、国庫補助を利用して文化財の発掘調査、あるいは文化財の資料整理を推進していこうとするものでございます。地域支援費、地域支援事業費、これにつきましては、4416万8千円を計上しておりまして、地域コミュニティの活性化のためのまちづくり交付金を交付しまして、市民が主役の地域づくりを促進しようとするものでございます。公民館の指定管理委託料を計上しております。地域支援費の城花町しろいし支援事業、これにつきましては、128万6千円を計上しておりまして、平成28年度から実施しておりますけれども、花と緑を活用した白石の魅力アップに向けた取り組みを継続したいと考えております。古典芸能伝承の館費でございますが1379万6千円を計上しておりまして、歴史文化の継承と創造を図るために伝統文化の継承、あるいは体験事業を継続的に29年度も推進していくことを考えております。保健体育総務費、これにつきましては、498万8千円を計上しておりまして、マラソン大会等各種スポーツ大会開催経費を計上しておりますが、交流人口の拡大に資するものと考えております。特にマラソン大会につきましては、28年度は第30回記念大会ということで、通常の大会より100万円増額して250万円を負担金として実行委員会の方に支出し行いました。29年度は国民健康保険の補助が無くなることから、その分の100万円を市の単費から支出するように考えております。そのための財源といたしまして、スポーツ振興費助成金の申請をいたしまして250万円の5分の4の補助200万円を受けられるように、今月中に申請を行う予定でおります。以上が生涯学習課の事業内容になっております。ほとんど第5次総合計画の5本の目標に沿った予算付けで29年度も事業を遂行していくように考えております。次のページの図書館ですけれども、図書館運営費につきましては、2453万6千円を計上しておりまして、継続して利用者の要望に応えられるよう蔵書の充実に努めていこうと考えております。また、もう一つは読書活動の推進ということで第3次しろいし子ども読書活動推進計画を実践していこうと考えております。情報センター運営費につきましては2242万1千円を計上しておりまして、市民の生涯学習の推進を図るため、各種パソコン講習会、あるいはパソコン利用に関する質問受付を行っていこうと考えております。この業務につきましては、業者へ業務委託ということで、この事業を推進していこうとしております。また、2階にあります子どもの絵本コーナーを活用して子どもの読書活動をさらに推進していこうと考えております。情報センターは28年度パソコンの更新がありまして、28年度は2470万円ほどでしたが、29年度はその分がありませんので、29年度は28年度と比較しまして、約170万円の減ということで予算を計上しております。以上でございます。

山田市長 はい、ありがとうございます。この29年度の予算編成についての報告は以上で終わりということでしょうか。

(「はい」という声あり)

山田市長 では、ただ今の報告に関しまして皆様から確認したい点などございましたら、よろしくお願ひいたします。よろしいですか。

高橋委員長 よろしくお願ひいたします。

山田市長 私、今日初めてこの資料を見させていただいて、課長がそれぞれ説明していただいたことが、正直、この資料を見ては伝わってこなかったとっております。予算要求にあたって努力、工夫した点が書いてありますが、「えっ、これしかないの」と正直思いました。特に2、3ページに関して、予算要求の概要、特徴、効果等非常に長々と書いてあって、その中で工夫した点は2行しかない。これをまるまる飲んでくれと言われても非常に申し訳ないけれど説得力に欠けるなあという感想を率直に抱きました。それでは、報告事項2は終わりにしまして、3番学校統廃合について、よろしくお願ひいたします。

武田教育長 私の方から報告いたします。これからの予定について説明をさせていただきます。平成28年12月8日、中学校の専門部会を開催しました。今月24日に第二小・斎川小統合準備委員会第2回目の開催を予定しており、大筋についての話し合いを行う予定であります。1月30日に東中学校と白川中学校の第2回の専門部会、2月6日に白石中と南中の専門部会を開催し、3月中に中学校の統合準備委員会を開催いたします。また、準備委員会の方で、今、統合準備委員会だよりを発行して、地域等に周知をしているところであります。斎川地区においては全戸配布、第二小学区については回覧版でお知らせしております。以上です。

山田市長 はい、ありがとうございます。学校統廃合についての報告に関して、皆様よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり。)

山田市長 はい、ありがとうございます。では、以上で報告事項を終了させていただきます。では次に、協議事項に移ります。白石市の教育の未来構想について、皆様と様々な意見交換をさせていただきたいと存じます。まず、私は、10月の市長選挙におきまして、子ども達の教育環境の充実を図っていきたくと選挙公約に掲げました。子ども達は宝物です。子ども達の教育環境をしっかりと充実していくということがこれからグローバル化した社会の中で、力強くたくましく自分の足で自立していくために、AIを

含めたさまざまな科学技術がどんどん発展していく中でやはり人間がやらなければならない仕事、人間にしかできない仕事があるはずで、それらに特化していかなければならないと思っています。そういった部分について、子ども達自身が自ら考えて様々な急激な時代の変化にも対応していけるような人材を何としても育てていかなければならないと思っております。では、そのために具体的には何かと考えると、私はICT教育の充実、また、ALTを活用した外国語教育の充実という部分は欠かせないと思っております。また、図書館、こちらは建設から40年以上経過していますが、正直、今すぐ建て替えというのは難しいと思うのですが、ただ、図書館というものを今後、白石市の中でどのような位置づけにしていくのかが非常に重要だと考えておりますので、子ども達の教育環境と図書館に関して皆様から様々なご意見をいただきながら議論を深めていきたいと思っておりますが、皆様、いかがでしょうか。

佐藤（敏）委員 今ちょうど、ICTの話が出て、人工知能により、今現在の職業の中の30数種類がなくなるという予測もあり、ICTの技能的なものは、最低限身につけなければならないと思えますし、市長がおっしゃるようにICTの理解、先生方、特に子ども達は小学校から使用していますので、いろんな意味でかなりの技術は身に付いていると思うのですが、将来的な職業に対する意識、ICT教育とともに今後、子ども達が身につけていかなければならないことを分析して、子ども達に身につけさせていって欲しいと感じています。

山田市長 ありがとうございます。他の皆様いかがでしょうか。

武田教育長 今、図書館は1つですが、将来的な図書館の概念について考える必要があると思えます。例えば、図書館を中央図書館的部分と公民館的な機能的な部分に、周辺部の子ども達や住民が活用できるような図書館の支所的な役割の部分を加える等、今後の検討課題だと思います。中心部にコンパクトにした場合、周辺の部分をどうするか。今は月1～2回、図書館のこまくさ号が行っていますが、今後どうするか、位置、人の動線、敷地や建物の面積等、大きな構想の中で考えなくてはならないと思えます。図書館は非常に古くなっていますので、施設的な部分で何から始めていくか、図書館建設にあたっては早め早めに考えていかなければならないと思っております。

山田市長 はい、ありがとうございます。

高橋委員長 文化の起点としての図書館は子ども達にとってとても必要なものです。ただ、図書館だけとなると二の足を踏む子もいるかもしれないので、気軽に行くためには、子ども達が雨の日でも遊べる場所がある、地域市民でいえば博物館的なものが一緒にある等、そういった総合的なものの中心に図書館があるという、少し、構想が大きいかもしれませんが、やるならばそのくらいの規模で考えていくこともよいかと思えます。その方が、市民全体を巻き込んで、活性化の基になっていくように思います。駐車場の

確保も必要ですね。

山田市長 ありがとうございます。こういったものを目指していくのが非常に重要になっていくと思うんです。そういうなかで、例えば多賀城市の駅前にできた図書館であるとか、私は11月に友好都市である札幌白石区の方に行かせていただいたのですが、白石区は区役所の中に絵本図書館があり、区役所に多くの親子連れが行く、土日も絵本図書館は開館している。そういったものもありまして、いろいろな観点から研究する必要があると思っています。私は特に本があるところで勉強できる環境が重要ではないかと思っており、図書館というのは、様々な専門的な文献・書物もございますし、地域の歴史・文化などの大事な書物もございますので、何か研究をしたり、子どもから大人の方まで、自由に本を読むだけではなくて、様々な学習ができるようなスペースがあれば、非常にいい図書館になるのかではないかと考えているのですが、皆様いかがでしょうか。図書館で思いを巡らせていきたいと思うのですが。

佐藤(敏)委員 市長がおっしゃった多賀城の図書館は、我々も塩竈市で教育委員の東北大会が開催されたときに見学したのですが、勉強する場所と自由に読む場所がありましたよね。

片平委員 市民の方が自由に読むことができるよう、いろいろなところに椅子が設置してあり立って読むのではなく座って読めるようなスペースや、勉強する静かなスペースがずいぶん多くあり、雰囲気もいいというか、落ち着ける場所だと感じました。コーヒー屋さん併設されていたのですが、そういう部分ではなく、本を読みたい、ちょっと何か調べたいという思いの方が長くいられるようなスペースが多くあったと感じました。そのほかの図書館も利用したことはあるのですが、最近はそのようなものが多いと感じました。

山田市長 ありがとうございます。先ほど武田教育長がおっしゃったように場所というのも大きなポイントになっていくと思うんですね。例えば、多賀城でいえば駅前にありますし、教育長がおっしゃったようにメインとなるものがあって地域にも…今回学校の再編ということで新たに学校の施設を利活用していくのかを考えたときに、その施設が地域の方々が集まれるような施設であれば、子ども達も大人の方も非常に有効な今後の利活用という部分にもなっていくんだろうと思いますし、何かいろいろなことを考えながら、ただ実際考えているばかりでは前に進んでいきませんので、ここはやはりある程度議論を深めたうえで、私はできれば多くの市民の方を巻き込んでいきながら、現在図書館のボランティアの方も本当に多くの方々にご協力いただいていますので、そういった方々の声や利用者の方の声を聞きながら検討していきたいと思っておりますので、どうかその際には教育委員の皆様にも積極的にご提言を頂戴できればと思いますので、よろしく願いいたします。学校教育の件に戻りたいと思うのですが、私は議員時代から、白石市は35人学級、それから2学期制、ICT教育、ALTと、他の市や町と比較して、白石市は学校教育には力を入れていると思っておりますし、



選挙戦でも子育てをするなら白石市で子育てをしたいと言われるような、公教育として他の市や町にはないような特色を今後さらに打ち出していきたいと考えておりますが、そういった特色ある教育に関しましてぜひ教育委員の皆様からもさらに踏み込んだご議論をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

武田教育長 教育委員会では、以前から子育てヒント集というものを作成していて、今は改訂をしている最中ですが、小学校に入る前の幼児期の子育ての時期に、例えば中学校卒業時期というような将来の見通しを立てるのは難しいと思います。ですから、中学校卒業までの部分をずっとまとめた子育てヒント集をつかって、小学校・中学校に入学するときに配布しています。つまり学校教育というのは、学校教育だけで完成するものではなく、学校教育以前の幼稚園・保育園あるいは家庭教育そういった時期から継続したところに学校教育があり、先ほど委員長から話のあった目指す市民を育成する、ここに根ざすかどうかは別にしても、そういった子ども達を育てていくのが公教育の役割だと思います。子ども達が学校教育で「勉強しなさい」と言われて勉強するのではなくて、子ども達が自然に本に触れる、といった環境がある施設が幼い頃からあれば違うんだろうなと思っています。これは学校教育とは離れるかもしれませんが、東京や仙台と白石を比較すれば、例えば、上野の動物園や美術館等に子ども達は無料で入れる等、東京や仙台には白石では学習できない子どもの環境があります。小さい頃から本物に触れることができる。今、白石ではなかなかそういったことはできない。ただ、少なくとも今後はそういったことを意識して環境を整えていくことは大事だと思います。それは、大人ではなく小学校に入る前の子ども達がそういったものに触れられるような環境があって、その上に立っての小中学校の接続というか、小中一貫校や幼稚園からの…という形の上ではなく、地域としてどう子どもを育てていくのかという将来構想が、大事なことではないかと思っています。

高橋委員長 それに関連して、学校に入ってからが勝負ではないんです。学校に入る前の子どもの親をどのように援助し、支えてやるのかということが、課題としてあります。保育園と幼稚園、子どもは同じですので、教育委員会と子ども家庭課が一体となって取り組む、文科省と厚労省という所管の違いで大変な部分もあるのですが、その辺のところを何とか乗り越えて行かないと本当の子育て支援はできないのかなと思います。小さいときから遊びながら本を読めるとか、本に親しむとかという環境ができていけば、自然にそれがつながって行くように思うんですね。ですから、学校だけの図書館ではなく、先ほど教育長が言われたように、広く学校に入学前の子どもやその親に対して、どのような支援をするのかを私達教育委員会も市としても一緒に力を合わせてやっていくことがとても大事だといつも感じています。中学校でお話をする、「その話を小学校の時に聞いたかった」と言いますし、小学校でお話をする「その話を学校に入る前に聞いたかった」となるんですね。そうなるとうち幼児教育が非常に大事になってくるのかなと思います。

山田市長

ありがとうございます。私も教育の原点は家庭教育ではないかと思っています。しつけというのは基本的には家庭でなされていて、それが底辺としてしっかりできていたうえで、義務教育課程がしっかりとスタートできれば、間違いなく子ども達の社会性が身に付き、力強くたくましくすこやかに育っていくと思いますが、なかなか家庭教育という部分で非常にご苦労されているご家庭もあると聞いていますし、家庭環境も非常に複雑になっていて、そういう中で子ども達の育つ環境も厳しい時代になっているというのは重々理解しております。行政として、バックアップしていくというのは、重要であるのはわかるのですが、難しい大きな課題でもあると思っています。私も昨年同窓会を開きまして、同級生と話をするのは、先生にこんな指導をしてもらったとか、あんなことがあった、こんなことがあったというどうしても学校での出来事がいつも話題になります。私は義務教育課程で先生方と子ども達との関係が、子ども達の成長に大きな影響を与えると思うのですが、教育環境も厳しい、先生方もなかなか子どもと向き合える時間が少なくなっているという中で、少しでも子ども達と向き合える時間を先生方につくっていただきたいと思っておりますが、そのために白石市は二学期制、また35人学級を導入していますが、現時点での学校教育の課題をぜひお聞かせいただきたいと思っております。

武田教育長

今、市長が言われたことがまさにそのとおりで、学校教育の一番の主眼は、いかに教員の力量を高めるかにつきます。教員に力がなければ、いい学校は絶対にできません。あわせてそれをリードする管理職がしっかりとした管理職でなければ、これまた問題が起こります。学校というのは何かを生産するのではなく、子どもを育てるところです。子どもを育てるときには、人間対人間がやるわけですから、人間性しかないんです。教員の人間性と指導力。それでしかない。そのときに一番大事なものは、学習の指導力もありますが、やっぱり情熱のある教員が一番だと思っています。例えば、ベテランの先生方の指導する力からみれば、経験が少ないですから若い教員の指導力は間違いなく欠けます。しかし、指導力に勝る熱いものを持っていれば子ども達はついてきます。いつも自分たちのそばにいてくれる教員、休み時間やどんなときでもそばにいてくれる教員、あるいは困ったときにすぐ相談にのってくれる教員、部活とかいろいろな場面を見ていて声をかけてくれる教員、そういった面を持った教員は子ども達にとって一番じゃないかと思っています。そのうえで学習の指導力があるんだろうと思います。白石の教育の最初に出てきますけれども、県も文科省も「確かな学力、豊かな心、健やかな体」という順番なんです。学力が一番なんです。しかし、白石市だけはずっと、教育委員会で「豊かな心、健やかな体、確かな学力」という順番で掲げています。もちろん3つとも大事なんですけれども、やっぱり豊かな心を育てなければ、学力は定着しないんです。宮城県も教育振興計画を今度改正するのですが、「豊かな心、健やかな体、確かな学力」という順番に変えていくことになったようです。豊かな心を育てるためには、教員の方も豊かな人間性が必要です。そのための教育委員会の役割も非常に重要になってくると思っております。

山田市長 ありがとうございます。やはり教育長がおっしゃったように、情熱のある先生、非常に重要だと思うのですが、私自身、小学校6年生の時に担任の先生から声をかけてもらった言葉が非常に心に残っていて、実は、将来、学校の先生になりたいなあとずっと思っていました。残念ながら今学校の先生はやれてないんですけれども。やはり、子ども達があこがれる職業、先生を見て僕も私も将来学校の先生になりたいと子ども達が思うような先生方がそれぞれの学校で多く教鞭をとっていただければ、間違いなく子ども達は幸せだと思いますし、人の成長を感じられる職業はすてきなあとと思いますので、ぜひとも力のある先生を引っ張っていただくようよろしくお願いします。

山田市長 それでは、皆様どうでしょうか。もしなければ、このあたりで閉じさせていただきたいと思います。皆様から今回、お題目として非常に大きい白石市の教育の未来構想ということで、様々なご意見をいただきました。私も今後市政の舵取りをさせていただくうえで、皆様からいただいたご意見を踏まえながら、様々な施策を打っていきたいと思いますので、今後とも教育委員の皆様におかれましては、様々な角度から時には厳しいご意見も賜りますように心からお願いをいたします。それでは以上で協議事項を閉じさせていただきたいと思います。それでは司会を事務局にお返しします。

小室課長 ありがとうございます。以上をもちまして第3回総合教育会議を終了させていただきます。終了にあたりまして、高橋委員長からごあいさつをお願いします。

高橋委員長 山田市長、本日はお忙しいところ、貴重な時間を割いていただきまして、ありがとうございます。ちまたでは、教育委員会は独立している機関なのだから行政はあまり関係ないんだというような話も聞きますが、実際はそういうことではなく、市長部局と教育委員会が一体となっていくのが一番大事だと思います。その話し合いの中で、腹のさぐり合いではなくて、腹をさらけ出してやっていこう。そのことがお互いに理解を深め、信頼の絆がより太いものになっていくのではないかと思います。ですから、お互いに知恵を出し合い子ども達にとって何がプラスか、市民にとって何がプラスになるのか考え合うのにこういった話し合いが大事だと思っています。これからお互いにさらに議論を深めていくことによって、ますます子ども達、地域の方々にとってプラスになるべく、知恵を出し合い、いいものをつくっていくためにお互いに努力することを確認しあいながら閉会のあいさつにかえさせていただきます。今日はありがとうございました。

(ありがとうございました)

小室課長 これをもちまして、一切を終了させていただきます。

(午後5時04分閉会)